

計画の名称	1 弘前公園を中心とした歴史・文化を発信する交流拠点の形成と安全で安心な都市公園づくり (防災・安全)			
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)	交付対象	弘前市	
計画の目標				

弘前公園（鷹揚公園）を始めとする市内の都市公園には老朽化や危険性のある施設があり、市民や観光客に対して歴史的価値及び景観並びに機能面・安全面で不具合が生じている。また、中心市街地には様々な歴史的・文化的資源が集積し、さくらまつりやねぶたまつりなど全国的に知名度が高いまつりが開催されているが、まつり期間以外では、中心市街地を回遊する観光客も少なく、その資源が十分に活かされていない状況にある。

このような中、弘前公園内の老朽化している各施設や中心市街地の緑地等の整備により、市民の福祉の増進を図るとともに、歴史的・文化的施設を有効活用することによる魅力ある環境を構築することで、弘前公園及びその周辺地区に立地する観光施設等の利用増進による中心市街地における通年での活性化を図る。

さらに、安全で安心な公園環境を構築するため、処分制限期間を経過し、且つ危険度判定調査において、改善が必要とされた公園施設を改修更新するとともに、長寿命化計画を策定し公園施設の予防保全的管理を行う。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前公園（有料区域）入園者数を33万人/年（H21）から37万人/年（H27）に増加</li> <li>・中心市街地における観光施設等利用者数を137万人/年（H21）から195万人/年（H27）に増加</li> <li>・改修更新が必要な公園施設を76公園（H21）から52公園（H27）にする</li> </ul>			
----------------	---	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H27末)							
・弘前公園（有料区域）入園者数を調査する。	33万人/年	35万人/年	37万人/年							
・中心市街地観光施設利用者数を調査する。	137万人/年	166万人/年	195万人/年							
・公園施設の改修更新が必要な公園数。	76 公園	54 公園	52 公園							
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,663 百万円	A	944 百万円	B	496 百万円	C	223 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	13.4%

事後評価（中間評価）

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
本市の担当部局にて評価を実施	平成28年9月
	公表の方法
	市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-A-1	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	都市公園事業（鷹揚公園）	園路、石段、休憩施設整備 A=48.9ha	弘前市						230	
1-A-2	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	中心市街地活性化広場公園整備事業	藤田記念庭園等3箇所における園路整備等	弘前市						399	
1-A-3	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	弘前市都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	都市公園施設改修 26公園	弘前市						240	
1-A-4	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	弘前市公園施設長寿命化計画策定調査	長寿命化計画策定	弘前市						15	
1-A-5	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	公園施設長寿命化対策支援事業	三岳公園等13箇所における遊戯施設の改築等	弘前市						60	
合計														944	

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-B-1	道路	一般	弘前市	直接	弘前市	(市)住吉山道町線道路整備事業	道路改築 L=220m、W=20m	弘前市						496	
合計													496		
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考	
1-B-1	本路線は、国道7号撫牛子地区と中心市街地を縦断的に連絡する幹線道路(都市計画道路3・3・2号山道町撫牛子線)の延伸区間であり、また、国道7号豊田地区から環状道路(都市計画道路3・3・7号弘前黒石線)と県道石川土手町線を経由して中心市街地へ向かう際のアクセス道路であることから、円滑な道路交通と安全な歩行者空間を確保するため、幹線道路と県道を繋ぐ延長約220mの道路を新設する。これにより、弘前公園等へのアクセスが強化され、市民及び観光客の中心市街地及び弘前公園等への移動利便性の向上に寄与する。														
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-C-1	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	歴史的風致形成建造物等整備事業	旧第八師団長官舎修理等	弘前市						71	
1-C-2	公園	一般	弘前市	間接	弘前城築城400年祭実行委員会	弘前城築城400年祭	「弘前城新能」等の400年祭記念事業	弘前市						70	
1-C-3	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	ライド・トゥー・パーク社会実験	駐車スペース確保・トランジットモール実施、巡回バス運行実験、駐車料金割引	弘前市						24	
1-C-4	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	趣のある建物ガイドマップ作成事業	歴史的・文化的建造物散策ガイドマップ作成	弘前市						1	
1-C-5	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	土淵川公園ネットワークづくり	土淵川周辺広場整備	弘前市						12	
1-C-6	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	景観ガイドライン作成事業	景観ガイドライン作成	弘前市						1	
1-C-7	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	弘前公園周辺自転車ネットワークづくり	自転車走行空間整備	弘前市						4	
1-C-8	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	弘前市公園施設予防保全型整備事業	公園施設更新	弘前市						30	
1-C-9	公園	一般	弘前市	直接	弘前市	弘前公園周辺にぎわい創出事業	バス料金低減による公園利用促進及び中心部活性化の社会実験	弘前市						10	
合計													223		
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考	
1-C-1	旧紺屋町消防屯所は、弘前公園西濠入口に位置し「弘前さくらまつり」を背景として、多くの市民及び観光客の目に触れることから、平成23年度歴史的環境形成総合支援事業を活用し、保存公開の修理及び耐震改修を行い、平成24年度には、夜間景観を演出するためのライトアップの整備を行う。 旧第八師団長官舎は、追手門向かいに位置し、国指定重要無形民俗文化財の「弘前ねぶたまつり」の背景として、多くの市民や観光客の目に触れる施設であるが、老朽化が著しいため、保存公開の修理及び耐震改修を行う。														
1-C-2	国指定史跡弘前城(弘前公園)が築城400年を迎えることを記念して「弘前城築城400年祭(記念事業)」を実施することで、地域全体で歴史的資源の保存と活用に取り組む機運の醸成や、歴史的風致の維持向上に寄与するとともに、公園の利用拡大による公共福祉の増進を図る。(弘前市歴史的風致維持向上計画に掲載)														
1-C-3	「弘前さくらまつり」が開催されるゴールデンウィーク期間に、弘前公園周辺の駐車場不足と交通渋滞を解消するため、国道7号及び102号に近接した場所に無料駐車場を設置し、弘前駅東口と結ぶ巡回バスを運行することにより、市民及び観光客の弘前公園への来園を誘導する。 また、まつり期間以外に弘前公園へ誘客するため、7月、8月、10月の休日(土曜日日曜日合わせて4回)に、都市計画道路3・3・2号山道町撫牛子線の山道町から弘前郵便局までの両側1車線ずつを駐車スペースとして活用、併せて、土手町通りの松森町ふれあい広場前交差点から下土手町交差点までの一般車両の通行を規制するトランジットモールを実施して、市民及び観光客の弘前公園及び周辺施設の利用増進と土手町商店街における賑わいの創出を図る。 さらに、弘前公園内で開催の「弘前城菊と紅葉まつり」期間の日曜日(2回)には、弘前駅・土手町周辺駐車場の協力を得て、当該駐車場を利用する弘前公園入場者の駐車料金の割引を実施して、弘前公園利用の増進及び中心市街地への誘客を図る。														
1-C-4	弘前には、文化財に指定されていない歴史と文化が息づく建物が多く点在していることから、弘前の新たな魅力の発見や城下町としての奥深さを体感してもらうために、弘前市中心市街地活性化基本計画に位置付けされた当該事業により、市が指定する「弘前趣のある建物」を掲載するガイドマップを作成し、市内の公共施設等で配布し、市民や観光客に情報発信することにより、弘前公園を中心とした観光施設間の回遊性を高める。(弘前市歴史的風致維持向上計画に掲載)														

1-C-5	県の土淵川総合流域防災事業と連携して、弘前市中心市街地活性化基本計画に掲載されている土淵川環境整備連携事業の実施により、蓬莱広場、土淵川北川端町緑地及び土淵川吉野町緑地を囲む市道を「まち歩き回遊ルート」として照明灯や案内看板を設置し、市民や観光客を土手町商店街や弘前公園等へ誘導する。また、蓬莱橋付近にはポケットパークとして橋詰広場（約80㎡）を整備し憩いの空間を創出する。このように県と市が連携して土淵川の水辺とその周辺を一体的に整備することで、市民や観光客がまち歩きを楽しめる空間をつくり、中心市街地の回遊性を向上させる。
1-C-6	平成24年6月に施行予定の景観計画に定める良好な景観形成のために必要な基準（景観形成基準）が定性的であるため、市民等によりわかりやすく解説することを目的としてガイドラインを作成するとともに、景観計画と同時に施行する景観条例や屋外広告物条例に基づく申請手続きなどを要約したパンフレットを作成し、弘前ならではの景観形成を図る。
1-C-7	自転車の利用環境向上に向けて、平成23年に組織した自転車利用環境研究会での検討を継続的に進め、平成24年度は自転車ネットワーク想定調査、アンケート調査及びワークショップを行う。これらの結果や弘前地域公共交通計画を踏まえ、平成25年度には自転車ネットワーク設定調査等を行い、施設間の交流ネットワーク形成を図り、安全で安心な移動支援を図る。
1-C-8	平成25年度策定予定の弘前市公園施設長寿命化計画に基づき、適切に維持管理を行っている公園施設を改築することで、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる公園空間を確保するとともに、弘前公園を中心とした緑のネットワーク形成の充実を図る。
1-C-9	12歳以下の子供を持つ親子のバス料金を補助することにより、公園や公共施設の多様な機能を有意義に散策・利用し、子供が身体を十分に動かすことができ、身体的・精神的・社会的健康を守るための場所として弘前公園へ誘導するとともに、家族でまちなかを安全に移動しながら楽しく過ごせるよう、弘前公園を中心とした中心市街地での賑わい効果を図るため、バス料金低減による公園利用促進及び中心部活性化の社会実験を行う。

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

## 2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>指標①弘前公園「有料区域」入園者数については、概ね達成することができた。（根拠：指定管理者による弘前城入園者数報告書より有料区域販売枚数を把握）</li> <li>指標②中心市街地観光施設利用者数については、概ね達成することができた。（根拠：弘前市中心市街地活性化基本計画目標指標データ平成27年度集計表より）</li> <li>指標③改修更新が必要な公園施設の存する公園数については、52公園から32公園に大幅に減少することができた。</li> </ul>			
II 定量的指標の達成状況	指標① 弘前公園 (有料区域) 入園者数	最終目標値	37万人	目標値と実績値 に差が出た要因	便所の改修や園路の整備等により、来園者の利便性の向上が図られ、また、交通渋滞の緩和のための巡回バスの運行等を行い、弘前公園への来園を誘導したことによる効果があらわれた。 (弘前市中心市街地活性化基本計画 平成28年3月15日認定 目標指標より)
		最終実績値	38万人		
	指標② 中心市街地観光 施設利用者数	最終目標値	195万人	目標値と実績値 に差が出た要因	公園整備とあわせて、散策ガイドマップの作成等により、地域資源である歴史的・文化的建造物等の既存施設を活用して観光ネットワークを構築したことで、新たな回遊ルートが創出され、施設利用者数の増加が図られた。
		最終実績値	200万人		
	指標③ 改修更新が必要な公園施設の存 する公園数	最終目標値	52公園	目標値と実績値 に差が出た要因	子供たちが楽しく遊べる、親が安心して利用できる公園施設を最優先として整備を進めたことで目標値を大幅に上回った。（補正予算での改修を含む）
		最終実績値	32公園		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		効果促進事業での長寿命化計画策定、公園施設の改築、更新など計画的な長寿命化対策が図られた。			

## 3. 特記事項（今後の方針等）

- 平成28年からの整備計画においても、引き続き、策定した長寿命化計画に沿った整備を計画的に進め、効率的で適正な予算執行を図る。
- 遊具改修のほか、公園施設のバリアフリー化、耐震改修等、公園利用者の安全と利便性をさらに確保する。